

在宅業務における薬剤師と メディカルアシスタントとの業務連携 および調剤支援機器の活用

クリエイト薬局市ヶ尾在宅センター店

○小川翔、綿貫恵美、多賀翠、後藤良太

【目的】

調剤薬局において薬剤師が患者様の健康相談や処方箋調剤を行いながら患者宅や介護施設への訪問時間を確保することは重要な課題である。その課題解決のため、当社では2016年5月に在宅医療に特化した薬局を開設し、薬剤師と調剤事務（以下メディカルアシスタントとする）の業務連携および調剤支援機器の活用により、薬剤師の在宅訪問時間の確保に取り組んだ事例を報告する。

<取組前(2016年4月)>

- 人員 薬剤師4名、メディカルアシスタント2名
- 患者数 392名(6施設326名+個人宅66名)
- 薬剤師1名あたりの担当患者数98名

→在宅に特化した薬局作りのため、以下の取り組みを実施した。

【取組内容①】

薬剤師が従来行っていた業務（在宅での同意書取得や薬局での在庫管理等）をメディカルアシスタントへ業務移管し、薬剤師の在宅訪問時間を確保。

→薬剤師以外が出来る業務をメディカルアシスタントへ

- ・患者様への同意書取得
- ・訪問時間管理
- ・薬局薬剤在庫管理

薬剤セット補助



【取組内容①】

メディカルアシスタントへの教育

- ・薬剤師向け社内の研修への参加
- ・薬剤師と同行して同意書の取得
- ・薬局業務の移管
(在庫管理、金銭管理、備品管理等)
- ・薬剤師による業務チェック

同意書取得



【取組内容②】

全自動錠剤分包機と一包化監査支援システムを活用し、薬剤師の監査工程（錠数の目視確認等）を削減。また、レセコンとのリモート接続システムを構築し、訪問先でタブレットを用いて患者情報の確認や薬歴記載を実施することで空き時間を有効活用。

→機械化による作業効率の改善を図る。

【取組内容②】

全自動錠剤分包機・錠剤監査システム



タブレット型リモート用PC



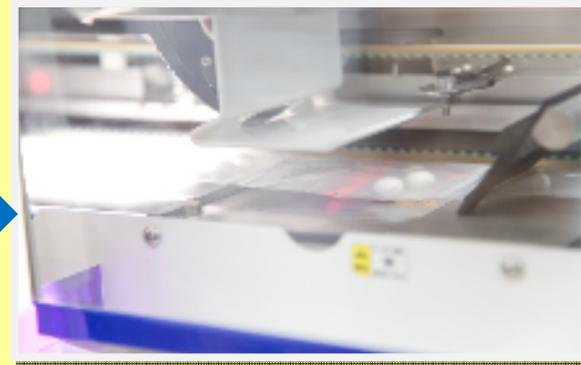
→調剤、監査時間の削減

→診療同行時の作業改善

【取組内容②】



①完成した一包化を機械にセット



②一包ずつ撮影



③撮影したデータから錠数や
薬に間違いがないか機械が
チェック

<取組後(2017年3月)>

- ・人員 薬剤師3名、メディカルアシスタント4名
- ・患者数 421名(6施設346名+個人宅75名)
- ・薬剤師1名あたりの担当患者数140名

→薬剤師の配置▲1名。

薬剤師1名あたりの担当患者数+42名。

2017年4月より新規施設1件応需開始。

【考察】

取り組み前後の比較すると、薬剤師1名あたりの担当患者数が42名増加し、薬剤師の所属も1名削減できた。このことより、メディカルアシスタントとの業務連携及び調剤支援機器の活用が薬剤師の在宅訪問時間を確保する手段として有効であると考えられる。さらに、作業の効率化で新規応需に繋げることができている。今後は育児時短勤務社員の活用や当社近隣薬局と連携できる環境を作り、在宅ニーズに対応していきたい。